

担当部局

生活福祉学専攻

評価項目 1	(ア) 体系的な履修を促す科目編成となっているか (イ) 開講科目数は履修登録者数、専任教員の担当状況から見て適切か
参照資料	<ul style="list-style-type: none"> ・開講科目・講義数の状況（科目区分別・3カ年程度） ・単位修得要領（カリキュラムマップ） ・カリキュラムマップ集計データ（アセスメントブック） ・卒業時アンケート（経年比較） ・ALCS 学修行動比較調査（他大学比較・3カ年） ・その他参照した資料（）

≪各部局による点検・評価≫

【検証結果（全体概要）】

(ア) 教育課程編成・実施の方針のもと、学士課程での学修を基礎として、論文指導（特別研究）を除くと、現在27科目の特論、特別実習が開講されており、内容的にも多岐にわたっており、高度な専門性を身につけることのできる教育課程を体系的に編成している。

(イ) 生活福祉学専攻の専門科目について、科目群別非常勤比率（3カ年程度）を確認すると、28%の割合で専任教員が担当しており、また履修人数も1～2名で教員フィードバックはしやすく学生同士の討論等がしやすい履修者数となっており、CAP制における履修登録の上限を考慮しても、開講科目数は適性であるといえる

【成果が上がっている点】

特筆すべき事項なし

【課題となっている点】

特筆すべき事項なし

評価項目 2	各種アンケート結果等から見る、教育上で「成果があがっている点」・「課題となっている点」についての検証（※アセスメントブック検証結果から流用）
参照資料	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時アンケート（経年比較） ・ALCS 学修行動比較調査（他大学比較・3カ年） ・ジェネリックスキル測定テスト結果（1→3回生の伸長・3カ年） ・アセスメントブック ・授業アンケート結果（学位プログラムレベル・3カ年） ・大学院アンケート ・その他参照した資料（）

担当部局

生活福祉学専攻

《各部局による点検・評価》

【検証結果（全体概要）】

2021 年度の在學生は 2 名であり、アンケート結果からはどの専攻のものかは判断できなかったが、履修指導の評価と授業に対する教員の熱意は高く、教員の指導は学生から評価を得ている。一方で、大学事務との連絡、図書館設備、研究室設備に関しては低評価（1 と 2）の割合が 25～35% 見られ、今後改善が期待される。

【成果が上がっている点】

特筆すべき事項なし

【課題となっている点】

特筆すべき事項なし

評価項目 3	(ア) 成績評価、フィードバックは、シラバスに基づき、適切に実施されているか。 (イ) 成績分布に偏りは生じていないか。
参照資料	・成績分布（G P A ・得点）（科目群別・3 カ年） ・ALCS 学修行動比較調査（対象設問） ・その他参照した資料（ ）

《各部局による点検・評価》

【検証結果（全体概要）】

(ア) 2021 年度の学生は 1 回生、2 回生各 1 名で、成績評価、フィードバックは適切に実施されていると考えられた。

(イ) 成績分布には偏りはみられなかった。

【成果が上がっている点】

特筆すべき事項なし

【課題となっている点】

特筆すべき事項なし

担当部局

生活福祉学専攻

評価項目 4	(ア) カリキュラム上主要な科目には専任教員を配置しているか。 (イ) 非常勤比率の高いカリキュラムとなっていないか。
参照資料	・ 授業担当一覧 ・ 科目群別非常勤比率（3カ年程度） ・ その他参照した資料（ ）

《各部局による点検・評価》

【検証結果（全体概要）】

(ア) 主要な科目には専任教員が配置されている。

(イ) 非常勤比率は 22.2%であり、大学院を担当できる専任教員が少ないことを考えると適切と考えられる。

【成果が上がっている点】

特筆すべき事項なし

【課題となっている点】

特筆すべき事項なし

評価項目 5	学科・専攻等個別の FD 活動について、どのような内容・目的で実施しているか。
参照資料	・ FD の取り組み状況 ・ 前年度点検シート ・ その他参照した資料（ ）

《各部局による点検・評価》

【検証結果（全体概要）】

学部での担当教員と大学院での担当教員がおおむね同じであったため、大学院教員のみに対して特別の FD 活動は実施していなかった。コロナ禍であったこと、現職教員で多くの授業を集中で実施したことより、学部で実施した ICT 教育に関する FD は大学院でも有益であった。

【成果が上がっている点】

特筆すべき事項なし

【課題となっている点】

特筆すべき事項なし

担当部局

生活福祉学専攻

評価項目 6	(ア) 職位、年齢、性別のバランスに配慮した教員組織編成をおこなっているか。 (イ) カリキュラムに基づく教員組織となっているか
参照資料	・教員組織編制方針 ・専任教員の状況 ・その他参照した資料（)

《各部局による点検・評価》

【検証結果（全体概要）】

(ア)養護分野、福祉分野ともバランスよく教員は配置されており、性比も専任、非常勤ともバランスはとれていた。

(イ)カリキュラムに基づき専任教員、非常勤教員は配置されていた。

【成果が上がっている点】

特筆すべき事項なし

【課題となっている点】

特筆すべき事項なし

実施責任者からの具体的な向上・改善施策（案）

具体的な向上・改善施策（案）について

家政学研究科生活福祉学専攻については、学部生がすでに発達教育学部教育学科養護・福祉教育学専攻に移行していること、また、新学部の設置が見込まれていることから、大学院についても今後は、この検証結果を踏まえて検討していただきたい。